

秋田県衛生科学研究所報

第 37 輯

平成 4 年度

ANNUAL REPORT
OF
THE AKITA PREFECTURAL INSTITUTE OF PUBLIC HEALTH

No. 37
1993

秋田県衛生科学研究所

はじめに

衛生科学研究所の業務は、機能的には、調査・研究、試験検査、情報収集・解析・提供、研修指導に、また、その性質からは課題解決型と課題発掘型に大別されるのではないかと考えられますが、最近、この業務に新しい観点が加わってきました。それが、本年7月、公衆衛生審議会から厚生大臣に提出されました『地域保健対策の基本的な在り方について』の意見具申書であります。

住民の立場に立った総合的な保健サービスの提供を基本的視点としたこの具申書では、市町村の役割重視と保健所の機能強化を中心に検討しておりますが、地方衛生研究所（地研）については、地域保健を担う機関の機能分担と相互連携を求めらる中で地研を位置付け、また、『地方衛生研究所については、その専門性を活用し、地域保健に関する総合的な研究と研修を行う機関として再編成すべきである』として地研の役割を提示しております。

このような岐路にあつて、私共は、今、秋田県新総合発展計画、秋田県保健医療計画、および秋田県研究開発推進懇話会中間報告書に上述の意見具申書を加えたものなどをベースにして、本県の特徴を浮き出させた当所の将来計画を検討しております。いわば、私共がおかれている立場（ハード）の中で、私共は何を目的に何をしていくべきか、また、何をすることができるかを検討した『衛生科学研究所の将来像（ソフト）』であります。また、『衛生科学研究所報の在り方—編集方針』についても、この将来構想の流れの一環として、検討を加えてきました。

これらを背景にして、職員一人一人の努力が部として所として積み上げられてきた平成4年度の業績を第37輯の所報として発行するに至りましたが、これらの一つ一つの仕事の本県の福祉保健行政や生活環境行政および県民の健康増進にいささかなりとも役立てば誠に幸いです。また、この視点から、関係各位、関係各機関の忌憚のないご意見、ご批判を是非お願い申し上げます。

平成5年11月

秋田県衛生科学研究所長

森 田 盛 大